

令和6年度 (宮城県立古川支援) 学校の研究概要 ～令和7年1月末現在～

運営委員氏名 (沼端 泰司)

研究テーマ	生きる力を育むための自立活動の工夫 ～自立活動の指導の充実に向けたシステム作りを目指して～
研究目標	1 特別支援教育における自立活動の意義や学習指導要領における考え方について理解を深め、児童生徒の学習上又は生活上の課題の克服を図る。 2 自立活動の個別の指導計画の様式を整え、児童生徒の実態把握と課題の整理、具体的な指導内容の決定、評価の流れの共通理解と効果的な実践を図る。
研究内容・方法 研究計画等	1 基礎研修（研修会） ・新転任者と希望者を対象とした自立活動ワークシートの使い方や研究の進め方についての研修、課題のある児童生徒への理解を深める研修、具体的な指導内容や指導方法について学ぶ研修を行い、日々の自立活動の指導や指導の評価に生かせるようにする。 2 実践研究（グループワーク） ・自立活動ワークシートを用い、対象となる児童生徒の実態把握、課題の整理、目標設定、指導内容や指導場面の決定に向けた話し合いを行う。 ・自立活動についての話し合いの充実や指導や評価の充実、学部や学級のチーム力の向上を目指す。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	1 基礎研修 (1) 新転任者・希望者対象研修会（5月15日） 自立活動の個別の指導計画の作成に向けて、どのように話し合いが進められるか、自立活動ワークシートの中でどのように整理されていくのかについて、研究部で抽出した生徒を対象とする具体的な話し合い例を実演するデモンストレーションを行った。 (2) 令和5年度実践報告（5月20日） 昨年度、自立活動ワークシートを用いて学年で話し合ったことを基とした、1年間の指導の成果や新たに現れた課題についての報告会を行った。 (3) 専門性向上研修会「適応できない子どもたちを理解するために」 （8月5日）講師：東北薬科大学 准教授 福地成先生 医師としての視点から、愛着障害の基本的な考え方、不適切な療育を受けた子どもの行動の理解、子どもとの面接の基本姿勢やその中で子どもに学ばせたいこと等を話された。専門的な見地から様々な知識を得ることができ、学部を問わず学びが多い研修であった (4) 課題別情報交換会（8月27日） 同じ課題をもつ児童生徒を担当する教師が指導方法や悩みを話し合ったり、情報交換をしたりする場を設定した。

	<p>(5) 令和6年度自立活動実践発表会(10月31日)</p> <p>児童生徒の事例について実態把握、目標設定、指導内容、これまでの指導で有効だった手立てや、成果と課題等について各学部1名ずつ発表を行った。</p> <p>2 実践研究</p> <p>(1) グループワーク①(5月)</p> <p>自立活動シートを用いて、担当児童の実態把握、仮説、目標の設定を行った。</p> <p>(2) グループワーク②(11月)</p> <p>指導した成果や次年度に引き継ぎたいこと等について、学級や学年の教師で確認や情報交換を行った。</p> <p>3 研究の成果、課題</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none">・デモンストレーションや新・転任者研修会、校務支援システムを用いたQ&A等によって、何をすべきかを示すことができ、校内研究に取り組みやすくなった。・昨年度の反省を検討し、実践的な内容の研修を増やすことができた。・校内研究を通して、話し合いを通して共通理解を図りながら指導することの大切さに気付いた教師、話し合いを通して児童生徒への理解が深まったと考える教師が多かった。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none">・若い教師、特別支援教育の経験がない教師が増えてきていることもあり、自立活動についての理念や基本的な考え方を学ぶ機会が不足していること。・多忙期に研修会が設定されてしまい、負担になってしまった。・グループワークの適切な実施時期の検討。・実践発表や情報交換会を充実させるためのグループ編成の検討。
--	---

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。